図書館だより　１月号

川之石高校図書委員会

2024 年を迎えました。３年次生は卒業を間近に控えています。自宅学習になり、時間や心に少し余裕ができる時期だと思います。新たな生活が始まる前に、新しい本を読んでみませんか。

また、１，２年次生を年度末考査までまだ少し間があります。今月は新刊も入っているので、一度図書館にも足を運んでみてください。

〔新任の先生より〕

「本から“も”学ぶ」

農業科　安西　彰宏　先生

私が学生の頃は、現在「ＡＤＨＤ」「ＬＤ」「ＡＳＤ」などと呼ばれる人たちには単に、「怠け者」「怠惰な人」「手先が非常に不器用な人」「コミュニケーションが苦手な人」などと言われていました。私がこれらのことを学ぼうと思ったのは、教員になって１年目のことでした。大学の授業で少し触れただけで、教員になると特別な授業があるわけではなく、自分で学ばなければならないと感じたからです。前置きが長くなりましたが、この時の学びに使った手段が「読書」でした。

また、それまで私が読書をする本は、シリーズ小説やライトノベルといった物語が多く、勉強のための読書といっても教科書や参考書、単語帳などを読んでいました。ただ、今思うとこれらの読書も「学び」に繋がっていたのかなと感じています。参考書などから知識を蓄えることはもちろん、物語小説からは登場人物の心情や書き手の思い、文章の書き方などを知らず知らずのうちに学んでいたのでしょう。

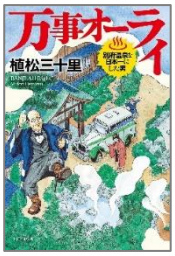
「学びには実体験や経験が大切」とよく言われており、私もその意見に大いに賛成ですし、私自身、「経験」での学びが多くあります。しかし、経験“だけ”では学ぶことができないことも多くあると思います。皆さんも普段の授業では、教科書に書いてあることを知識として蓄え、問題を解くという経験を通して、自分の学びとしていることと思います。ぜひこれから、「本から“も”学ぶ」という意識を持って学校生活を送ってもらえたらと思います。

〔新刊図書の紹介〕

『マンガでわかる！ 10 代に伝えたい名言集』（定政　敬子・北谷　彩夏　著）
「人とつるむのが苦手でなかなかできない」との悩みに、松井秀喜は応える。
「仲間にうまく入れない。それならそれで、別にいいんじゃないかな。誰かがつくった世界に、きみが入らなければいけない、ということはないんだよ」

※以下に紹介する本は、最近愛媛新聞に連載されていた作品です。

『遥か、ブレーメン』（重松　清　著）
私を捨てた“お母さん”の走馬灯には、何が映っているのだろう。
人生の思い出をめぐる、謎めいた旅行会社に誘われた 16 歳の少女のひと夏の物語。



『万事オーライ　別府温泉を日本一にした男』（植松　三十里　著）
宇和島に生まれ、奇想天外なアイデアと並外れた行動力を持った油屋熊八。“別府観光の父”と呼ばれた男の、感動の生涯を描く長編です。

『星屑』（村山　由佳　著）
この子たちを輝くスターにしてみせる――。
田舎者のミチルと、サラブレッドの真由。過酷な芸能界で、少女たちをスターダムに押し上げようとする女性マネージャーの前に立ちはだかる壁。必死にもがく少女たちと、様々な思惑で動く大人たちが織りなす、息もつかせぬ長編です。

〔１２月　月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉　　１２月１日～１２月２０日

１－１	１－２	１－３	２－１	２－２	２－３	３－１	３－２	３－３	合　計
３冊	１冊	０冊	９冊	４冊	１４冊	１１冊	１３冊	１１冊	６６冊

〈個人別〉

１位　８冊　清水　美愛（２－３）
２位　６冊　清水　英磨（２－１）
３位　３冊　竹内　夢乃（２－３）

「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝を毎日味わうことができる。」
ウォルト・ディズニー（ディズニーランドの生みの親／1901 － 1966）